

る検査法として、その価値が認められてきつつある。

著者は ⁷⁵Se-Methionine を用いて膀胱スキャンを試みたのでその一端を報告する。

⁷⁵Se-Methionine 250 μ Ci を静注し、5 分後にスキャンを開始した。スキャンナーは東芝製 RDA-106-6 で Detector は、3×2in. Crystal, Collimator 10cm focus の Honey Cone Type である。記録法は、マルチドット、カラー、フォート同時三方式で記録した。

スキャンを行なった30例のうち、28例は描出に成功したが、描出されなかった2例のうちの1例は肝臓で膀胱におよぶ病変が手術により確認され、残りの1例は、胆嚢、および小腸と思われる部位に activity が増加して膀胱影を不明瞭ならしめていた。

描出された膀胱影を king の分類にしたがってわけると、Horseshoe 9 High transverse 9, Sigmoid 9 例で他の1例は膀胱のため変形していた。

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

14. ⁸⁵Sr に関する研究

吉井弘文

(熊本大学放射線科)

当教室での老若差による Isotope の吸収、排泄の一連の研究の一環として、また骨シンチグラムの基礎的研究として、⁸⁵Sr のラッセにおける主要臓器への摂取状況、および尿への排泄を検討した。

骨は静注後6時間目の7.6%を最高として、以後経時的に少しずつ減少するが、その他の臓器では、静注後1時間目を最高として、その後急減した。1日目には骨以外の臓器ではほとんど痕跡を認めるにすぎなかった。

尿、尿への排泄は第1日目は約1/4分のが排泄され、およそ10日目には50%の排泄を認めた。